

令和3年度 すくすくウオッチの分析

河内長野市立三日市小学校 5年生

すくすくウオッチの概要

国語

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	83.1
思考・判断・表現 (書くこと)	80.0

概要

平均正答率は大阪府に比べて全体的に高く、無解答率も低かった。長い問題を解く際、時間配分も考えて解くように声掛けする必要がある。

特に成果が見られた問題例

⑧ (1) 修飾語と被修飾語の関係をとらえて、文を正しく理解する問題は特に正答率が高かった。日頃から文章を読むときに意識させることで力がついてきているのではないかと考えられる。

特に課題が見られた問題例

⑫ 無解答率が高く、正答率も大阪府より低い。ある文が別の表現になると、同じ内容なのに何を言われているのか正しく理解できていない。語彙の学習の際、ことばがイメージ化できるように、身近な言い換え例を挙げるなどの指導を行っていく。

算数

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	60.9
思考・判断・表現	43.4

概要

平均正答率は大阪府より高く、記述式の問題もよく書けていた。しかし、2つの量の関係を説明する問題は難しく感じているようである。

特に成果が見られた問題例

② (3) グラフをもとにしたライオンの体重の変化の大きさに関する意見について、正誤とそのわけを書くことができていた。正しくデータを読み取ることは大阪府を10%以上上回った。授業でグラフの読みとり方を学習する際に、図と関連付けたり、答えだけでなく、そう考えた理由も併せて書かせたりする学習(自力解決)の成果が表れている。

特に課題が見られた問題例

② (2) 倍の意味や表し方について理解することが難しかったようである。立式でつまづいてしまうのは、文章から大切なところはどこかが読み取れていないことが一因と推察される。これからも、問題文を図式化したり、与えられている情報から必要なものを挿んで解いたりする経験を重ね、文章を読み取って意味を確認していくことが必要だと考える。

理科

評価の観点別	学校の平均正答率
知識・技能	53.1
思考・判断・表現	42.9

概要

無解答率は低く、基礎的な内容や、生活に結びついているところ、実験を伴って学習したものについては概ね理解できていた。しかし応用問題になると情報量が多くなり、混乱してしまう傾向が見られる。

特に成果が見られた問題例

① (3) ② (4) 方角や太陽の動き、電気の仕組みの基本的なことは、知識として定着し、高い正答率につながっている。

特に課題が見られた問題例

② 回路の仕組みについては理解しているが、豆電球が付かないトラブルの原因を推察できていなかった。授業では成功体験しかしておらず、また教科書以外の内容の実験や応用問題に触れる機会はほとんどないため、普段の生活に結びついていない部分がある。最近は電池を生活の中で使う機会も減ってきているため、授業ではできる限り実物を使わせて体験させる時間を設ける。

すくすくウオッチ（教科横断的な問題わくわく問題）

観点別	学校の平均正答率
A 図や表、グラフ、短い文章、会話文等に示された内容を関連付けて、正しく捉える。	44.7
B 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を正しく理解し、自分の考えを持ち、伝える。	66.6
C 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、新たな課題となる事がらを考える。	54.7
D 図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて、順序良く、論理的に考える。	22.6
E 興味関心のある事がらについて、意欲的に工夫して相手に伝えようとする。	76.9

概要

文章や会話など、1つの資料から読み取る力についてはついてきている。他の教科と同じく、初めて出合うタイプの問題でも何とかして解こうとする意欲は高い。

特に成果が見られた問題例

③熱中症という身近な題材で考えやすかったことに加え、例を真似してでもまず取り組むように指導してきているため、何かしら書こうと挑戦できていた。（ただし解答の幅が広いからか、無解答率も高い。）成果に結びついた活動として、どの授業においても自分の思うように表現すること、そしてそこから出た様々な発想を認め合ってきた積み重ねが生きたのではないかと考えられる。

特に課題が見られた問題例

①（1）多くの資料の中から必要な情報を読み取り、整理していく力に課題が見られる。今回は数量関係の比較が求められていたが、そこで比較箇所の読み取り間違いや、計算ミスが起こった可能性がある。また、社会の諸問題について図や表から読み取る力が低くなっている。それらを普段目にする機会もなくなってきている。情報の取捨選択に慣れ、社会の諸問題について普段から考えるきっかけにもなるように、新聞記事を活用する機会を設ける。

すくすくウオッチの概要

児童アンケート

特に成果が見られたアンケート項目例

60 「文章を読むとき、どこが大事なところかを考えながら読んでいる。」という項目では、83%が肯定的な回答をした。これは本市や大阪府よりも13%高い。問題文の間かれているところや尋ねられているところ（キーワード）に線を引かせたり、大事なところを強調して読む強弱読みをさせたりするなど、どこが大切なところかを考えながら問題を読ませる取組の成果だと考えられる。

特に課題が見られたアンケート項目例

89 「ふだん（月曜日から金曜日）1日に、およそどれくらいの時間、ゲーム機、タブレット、スマートフォン等で、動画を見たり、ゲーム等で遊んだり、SNSをしたりしますか」という項目では、80%以上の児童が1日に1時間以上ネットで動画を見たり、ゲームをしたりしていると回答した。その内の約10%の児童は、1日に4時間以上に当てはまると回答した。世の中の情勢を鑑みつつ、健全な生活習慣や、ネットに潜む危険性や正しい使い方を、身近な例を知らせたり外部講師を招いたりして指導していく。

結果を受けて

《学校が重点的に取り組んでいくこと》

《国語》

- ・日記やノート等を書く際、積極的に既習の漢字を使用するよう指導する。
- ・普段の漢字の学習から、漢字を使った短作文などを使用し、意味を考えながら読み、書く指導をする。
- ・読書の時間等を利用し、長文を読み、文章構成に慣れ親しませる。
- ・文章の中のキーワードやキーセンテンスを見つける指導をする。

《算数》

- ・文章から必要な情報を読み取り、簡単な図や絵でかけるようにイメージ化する指導をする。
- ・時間の感覚がつかみにくい、何分間、何分前、何分後など、日常生活の中で指導をする。
- ・面積の公式のように多数種類があるものを覚えるため、日頃から記述式の問題に触れるよう指導する。
- ・情報を取捨選択していくことができるよう、情報過多の問題に慣れるよう指導する。

《児童のみなさんに取り組んでほしいこと》

- ・問題を解くために、最後まで続ける努力、何かを書こうとする努力が見られた。今後とも続けてほしい。
- ・授業を大切に、めあてを持って取り組む。
- ・習った漢字を忘れないよう繰り返し練習をする。文章を読むときに、漢字の意味を考えながら読むようにする。文章を書くときに、習った漢字を積極的に使うようにする。
- ・初見の文章をすらすら読み、内容を読み取ることができるよう、日々の音読を大切にすること。
- ・日常生活の中で、たす、ひく、かける、わるを使っていることを意識すること。
- ・日常生活の中にあるたくさんの情報から、必要な情報を選びだし活用する力をつける。

《保護者のみなさまに協力してほしいこと》

- ・今回の調査では「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束をしたことを守っていますか」の項目で、家の人と約束をしている人の内“守っている”と答えた子どもが100%でした。しかし、ネット等によるトラブルは多くなっています。また、毎年、携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等を長時間使用する子どもは、正答率が低い傾向があり、今回も同様の結果が出ています。携帯電話・スマートフォンやコンピュータ、ゲーム機等の使用について改めてお子さまと確認をしてください。
- ・情報を整理する力が高ければ高いほど、正答率も高い傾向にあります。日常生活の中にあるたくさんの情報の中から、本当に必要な情報を見つけられるよう、社会の諸問題について考えるきっかけを作ってください。